

新春大名刺交歓会に俘虜郵便を出しますので、手持ち資料を掲載します。なお、この資料は主にネットからの転載です。誤述等含まれることがあります。

1) 俘虜とは捕虜のこと。

2) ドイツ人が捕虜として日本に連れてこられたいきさつ

欧州各国は、世界各地を植民地化していました。

植民地獲得競争に遅れをとったドイツは、明治4(1871)年にドイツ帝国が成立すると、直ちに植民地の獲得に乗り出しました。

ドイツ帝国は、明治17(1884)年に南西アフリカを、明治19年(1886)年には東アフリカを保護領として獲得しました。

しかし、アフリカの植民地は、ドイツにとっては必ずしも望ましい土地ではなかったようです。

特に南西アフリカでは、て大規模な反乱が起きました。

激しい戦闘が繰り返され、また原住民が思うようにならないため、植民地経営も計画通りにいかなかったようです。

そこで、目をつけたのが中国でした。

市場として巨大な中国に、拠点を築くのがドイツの念願でした。

明治18年(1885)年、南太平洋のマーシャル群島を獲等したのを始めとして、やがてスペインからカロリン諸島、マリアナ諸島等を二千万マルクで買い取りました。

南太平洋ではグアム島を除くほぼ全ての島を手中にしました。

これらは、中国進出への第一歩だったといえるでしょう。

しかし普通の方法では、中国の領土を手に入れることはできませんでした。

当時、イギリス、フランス、ロシアなどが領土を手に入れていましたが、それは紛争や戦争などの軍事的な行動により獲得したものでした。

明治28年(1895)年の時点ですでにドイツは、将来中国に設けるべきドイツ東アジア艦隊の基地として、三都湾、膠州湾、舟山島、厦門、澎湖諸島、香港に近い大鵬島の六ヶ所を挙げていました。

その中でも膠州湾が最適であると考えていたようです。

<宣教師殺害事件とドイツ帝国の中国進出>

明治30年(1897年)11月14日、山東省曹州府鉅野県張家荘という、山東省でも地の利の悪い辺鄙な村にあった教会堂で、ドイツ人宣教師2名が殺害される事件が起きました。

この事件は、ドイツにとって格好の口実ができたことになります。

二週間後には早くも、ディーデリヒス中将率いるドイツ東洋艦隊の軍艦三隻が青島沖に進出しました。

青島には当時、約2,000の清国兵が駐留して、大小五つの兵営がありました。

列強の軍艦が頻繁に出没していたことから、清国側も警備を強化していたようです。

しかし清国の軍隊はドイツの艦船が湾内に入ることも、上陸することも阻止しませんでした。

清国側は儀礼訪問のためにドイツの艦船が訪れたと誤解していたようで、歓迎の意を表そうとしたようです。

実は、ドイツ軍の軍艦もそのように錯覚させる行動を見せていたのです。

軍艦から続々とドイツ兵が上陸しても、清国兵たちは何の警戒心も見せませんでした。

ドイツ軍は町を確認し、万一攻撃する場合には一番条件がよいと思われる場所に集結

すると、ドイツ軍は清国の章高元司令官に対して、三時間以内に武器を放棄して15キロ先の町滄口まで退却することを要求しました。

これに対して、何の警戒もしていなかった清国兵は、なすすべもなく要求に従わざるを得なかったのです。

＜九九ヵ年の租借（そしゃく）＞

明治31（1898）年3月6日、ドイツと清国の間で独清条約が締結されました。

その主な内容は…

- 宣教師二名殺害への賠償金
- 青島周辺並びに膠州湾一帯551平方キロを99ヵ年租借
- 青島・済南間430キロ、及び張店から博山までの支線40キロの鉄道敷設権
- 沿線15キロ以内での鉱山採掘権等の取得

賠償金以外のものがドイツにとってねらっていた利権でした。「99ヵ年の租借」という方法は、ドイツが初めて考え出したものです。

この案をやがて他の列強の国々も模倣することになります。

ドイツは総督府を置くとともに、海軍に所属する海兵隊と砲兵隊合わせて約1,500の兵員を駐屯させ、市街地の形成に取り掛かりました。

ドイツ占領時の青島は、清国の兵営こそ小さなものを含めて五つほどありましたが、実質的には2,000人ほどがほそぼそと暮らす小さな村に過ぎませんでした。

住民たちは専ら漁業を営んでいましたが、それは畑となる耕作地が乏しかったことと、そもそも山東半島には満州族が多く、女性は纏足をしていたために畑仕事をするのができませんでした。

周辺の山の多くは、住民が木を切って薪にするために禿山同然の状態で、勢い土地も肥沃ではありませんでした。

＜日本軍の侵攻と、ドイツ人捕虜＞

大正3（1914）年6月28日、セルビアの首都サラエボでオーストリア皇太子夫妻が暗殺されました。

それがきっかけとなり、1ヶ月後の大正3（1914）年7月28日第一次世界大戦が勃発することとなります。

やがて日本は日英同盟の誼から、大正3（1914）年8月23日にドイツに宣戦を布告し、陸海軍合わせて7万余の大軍を、中国山東半島の青島を攻撃するために派遣しました。

青島は明治31（1898）年以来、ドイツが極東進出の拠点とした租借地の要の都市でしたので、そのため、多くのドイツ人が日本軍の捕虜となり、日本に連れてこられることとなります。

＜山東半島とは＞

ドイツが欲しがった膠州湾や青島がある山東半島、ここには孔子の生地曲阜や名山で知られる泰山を有する山東省があり、中国でも早くから文明・文化が開けたところでした。

山東半島の気候は比較的温暖で、養蚕が行われ白菜、落花生等の農産物に富み、大規模な塩田で知られた膠州湾の後背地は、石炭を始めとする鉱物資源も豊かです。

明治42（1909）年から大正3（1913）年の五年間の統計では、平均すると最高気温は7月が29度6分、8月は32度1分、9月が28度2分、最低気温は12月が零下8度2分、1月で零下11度9分、2月は零下10度1分となっているそうです。

最低気温はかなり低いですが、中国の中では気候の面で比較的恵まれているといえます。

<日本各地のチンタオ・ドイツ人俘虜収容所>

日本軍の侵攻により、青島郊外で本格的な戦闘が始まりました。戦争が激化するとドイツ将兵が日本軍の捕虜となる事態が起こりました。

そこで大正3年（1914年）10月、久留米に最初の俘虜収容所が設置されました。

日独戦争でのドイツ兵俘虜（ドイツ人だけではなく、オーストリア人やハンガリー人等の様々な俘虜がいた）は4,697人でした。

<俘虜収容所開閉一覧表>

久留米	大正3年10月06日開始	大正9年3月12日閉鎖	
熊本	大正3年11月11日開始	大正4年6月09日閉鎖	(久留米へ移転)
東京	大正3年11月11日開始	大正4年9月07日閉鎖	(習志野へ移転)
姫路	大正3年11月11日開始	大正4年9月20日閉鎖	(青野原へ移転)
大阪	大正3年11月11日開始	大正6年2月19日閉鎖	(似島へ移転)
丸亀	大正3年11月11日開始	大正6年4月21日閉鎖	(板東へ移転)
松山	大正3年11月11日開始	大正6年4月23日閉鎖	(板東へ移転)
福岡	大正3年11月11日開始	大正7年4月12日閉鎖	(久留米、習志野等へ)
名古屋	大正3年11月11日開始	大正9年4月01日閉鎖	
徳島	大正3年12月03日開始	大正6年4月09日閉鎖	(板東へ移転)
静岡	大正3年12月03日開始	大正7年8月25日閉鎖	(習志野へ移転)
大分	大正3年12月03日開始	大正7年8月25日閉鎖	(習志野へ移転)
習志野	大正4年09月07日開始	大正9年4月01日閉鎖	
青野原	大正4年09月20日開始	大正9年4月01日閉鎖	
似島	大正6年02月19日開始	大正9年4月01日閉鎖	
板東	大正6年04月09日開始	大正9年4月01日閉鎖	

階級によって異なってはいましたが、平均すると俘虜一人当たり1ヶ月に、葉書と封書を合わせて3通の郵便を差し出すことが許されていました。

しかも俘虜郵便扱いとして無料でした。

家族からの便りは、健康で過ごしているかを尋ねるものが多かったようです。

<俘虜収容所の変遷>

日独戦争が終結して、4,700人近い俘虜を収容する収容所が必要になりました。

当初、収容先としては寺を使用する事が多かったようです。

その理由は、当時は大勢の人間を収容できる施設としてはお寺以外に、学校などわずかしかなかったからです。

そこで当初、西日本を中心に20ヶ所の収容所が設置されました。

俘虜収容所が設置された都市は、管轄する陸軍省の意向でしたが、収容所の設置をめぐっては誘致合戦も行われました。

数百人の俘虜が滞在することは、経済効果も大きかったのです。

戦争は一向に終わる気配がなく、年月が過ぎていきました。

そこで仮収容所的な寺から、本格的な収容兵舎を建設する必要が生じました。

このとき、12カ所の収容所を、6ヶ所に統合しました。

最初からの収容所である久留米と名古屋はそのまま存続しましたが、新たに習志野、青野原、似島、板東の4ヶ所の収容所が設けられることになりました。